

自分の国・憲法は自分で守ろう、軍事力ではなく憲法力と国民の団結力で。占領69年の2014年を主権回復へ始動の年に「平和的で責任ある政府が樹立されたとき、連合国の占領軍は、直ちに日本国から撤退しなければならない」ポツダム宣言

～ 沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動 ～

草の根ニュース

- 住所(東京) : 〒150-0042
東京都渋谷区宇田川町19-5 山手マンション1001
- 沖縄連絡先 : 池宮城紀夫 (弁護士)
沖縄県那覇市樋川1-16-38 那覇第1法律事務所
- 電話・ファックス : 03-3461-5758 090-4175-2010(平山基生)
- メール : kusanone@world.ocn.ne.jp
- ホームページ : [http:// www.kusanone.org](http://www.kusanone.org)
- 郵便振替口座 : 00190-5-611535 (主権回復カンパ 随時大歓迎)

日沖基地こそ米侵略の拠点

あり ぞう
ベトナム謝罪の旅、「蟻が象を倒した」不屈に学ぶ

ダイオキシン被害児の友好村、抵抗するクチのトンネル網

(2014年) 3月7日から12日、日本ユーラシア協会副会長佐藤和子さん提唱のベトナム平和の旅が行われました。



ホーチミン市からバスで1時間半位の所に位置する、クチ村の抗戦トンネルの地図 案内図を説明するベトナム人ガイドのハンさん

ベトナムへの米軍介入は、1954年5月7日ディエンビエンフーの戦いでフランス軍がベトナム軍に降伏したあと、本格化しました。そして、米軍は、1975年4月30日のサイゴン(現在のホーチミン)陥落まで、ありとあらゆる暴虐な非人道的手段を用いて、ベトナム人民

を支配しようとしてきました。原爆の使用まで、一時は考えられました。「フランス軍降伏の報せを聞いたニクソン副大統領は、周辺山岳地帯に集結したベトナム軍に対する原爆の使用をアイゼンハワー大統領に進言したが却下され

た。」ということです。(Wikipedia)

この米軍の人的には絶対に許されない行為の典型が、米軍米政府が、ベトコンと呼んで、人間以下の扱いをし、ベトナム人民がジャングルを利用した闘いをできないようにするために使用された、枯れ葉剤です。枯れ葉剤にある猛毒のダイオキシンは、ベトナム全

クチの抗戦トンネルは、幅40cm 高さ80cm から90cm。クチの人びとは1万4千人いたが*



蟻塚に似せた地下道の空気孔

*戦後生き残ったのは6千人。8千人が亡くなりました。ベトナム南部クチの米軍駐屯地は200もありました。貧しい村です。ちなみに、ベトナム人口は現在9千万人だということです。

子供たちが、トンネルの土を運び出すのを手伝いました。

クチ村はホーチミン市内より物価が安い。ホーチミン市では月給5万6万円で生活でき**

土の地中深くしみ込み、幾世代にわたって、遺伝子を破壊し、奇形児や障害児がいまなお多数生まれています。

このベトナム侵略の米軍基地、拠点が日本特に沖縄だったのです。

**る。ゴムの木畑があります。ゴムの木は、5年で成長し、20年持ちます。ベトナムはゴム

生産世界第4位。マレーシアが第1位。フランスの植民地時代にゴム、香木、胡椒、を生産していた。クチは貧しい村。高校はない。平和になって、まもなく39年。カンボジアに近い。工業労働者の月給は月1万2,3千円。貧しいが、幸せ指数は世界の国ぐにで、ベトナムは第2位。参考までに日本は45位。住みやすさは日本は13位でベトナムは90位。

ガイドのハンさんは、漢字で書くと「幸」だそうです。ゴが苗字。父78歳、母は、75歳。兄弟姉妹は9人います。日本語を日本語学校で学んだとのこと。最初に勤めた会社の給料が良く、弟妹、姪の学費を出して卒業させたがんばりやです。家族親族集まると31人。ベトナム人は親孝行だそうです。家族は全員クリスマスチャン。月に2度は、親と食事をします。

自分の国・憲法は自分で守ろう、軍事力ではなく憲法力と国民の団結力で。占領69年の2014年を主権回復へ始動の年に「平和的で責任ある政府が樹立されたとき、連合国の占領軍は、直ちに日本国から撤退しなければならない」ポツダム宣言「独立と自由ほど尊いものはない」ホー・チミン

ベトナム人民の抗米救国闘争の勝利、南北ベトナムの統一という歴史的な戦いの勝利は、「蟻が象を倒した」と言われます。

た施設で、そこでは、ダイオキシン被害で指がなかったり、障害を持ったりした子供たちへの授産所のような機能をもっている施設で、最近ではベトナム政府の財政支給も急増してい



抗戦トンネル見学の入入口

クチ村のすさまじい戦いとその勝利には、脱帽し、深く感動せざるを得ません。

ベトナムの、心優しい民衆の中のどこに、このような不屈の勇敢な精神が宿っていたのか。このトンネルは、集会室であり、台所であり、武器製造所であり、身を隠して自分たちを守る避難所でもあったのです。そのトンネルの長さは途方もない長さであり、米軍は全力でこのトンネルを見つけ出し破壊しようとしていました。トンネルはメコン川に脱出できるルートも作っていたと言います。

人道にそむく米軍枯葉剤使用作戦は許しがたい

米軍の毒ガス使用にも匹敵するあるいはそれを上回る非人道的な枯葉剤作戦は、ベトナム人民にどのような被害を与え、今も与え続けているか、そしてそれにいかに打ち勝って生き抜いているかをこの目で見ると、ハノイから1時間ほど行ったところにあるベトナム友好村を訪ねました。

この村は、最初、英独米仏日、最近カナダの6カ国ヴォランティアが創立援助し設立され

ます。ここでは、造花、刺繍、洋裁その他コンピュータ室もありました。

コンピュータ室の助手を勤めている青年は、ホアティウさんという人でした。最初入室したとき、子供かと思いました。彼はダイオキシンの影響で、成長できず、写真のように小さい人として成長しました。大学も出ており、知能にはまったく問題がないのです。しかし大きくなれないのです。私は、米軍がやったこと日本政府も基地提供で協力共犯したことに心底怒りとお詫びの気持ちを感じました。

こういう被害を受けているベトナム人民に



コンピュータ室の助手を勤めている青年ホアティウさん（左）

対して、日本政府は謝罪しなければなりません。同時に、このような政府をそのままにしている私たちもベトナム人民に対して謝罪をしなければならないと思うのです。

何よりの真の謝罪は、戦争戦力条約を廃棄して憲法を実現し、米軍基地を日本沖縄からなくすこと、日本を真に独立した主権平和国家にするそういう政府を作ることだと思います。(H)